

クラスター分析による 図書館利用者・非利用者のグループ化

佐藤 翔

1. はじめに

本研究の目的は人々の図書館に対する認識に基づいたクラスター分析により、図書館の利用者・非利用者をグループ化し、各グループの人物像とそれらの図書館に対する認識との対応を示すことである。

利用者はもちろん非利用者も含んだ人々が、身近な図書館や図書館一般に対しどのような認識（イメージ、信念あるいは図書館理解）を抱いているか、言い換えれば図書館をどのような存在と考えているかを知ることは、図書館関係者にとって重要である。図書館一般に関し、人々が抱く認識と、図書館関係者が目指す理想像との間にギャップが存在すれば、図書館への予算・人員配分や、先進的なサービスの実施についての理解を得られないことにつながる。逆に人々が期待するサービスを実施できていないことが、図書館の利用を遠ざけることにつながっているとすれば、図書館が人々の認識に寄り添っていく必要性も考えられるだろう。いずれの形でギャップを埋めるにせよ、まずは人々の図書館に対する認識を知ることが必要である。

人々の図書館への認識を明らかにする手法はいくつか存在し、例えばメディアの中の図書館像に対する内容分析を行うこと等も提案されている⁽¹⁾。しかしより直接的な手段としては、質問紙調査等で人々に直接、図書館に対する認識を問うことが考えられる。特定の図書館の利用者や奉仕対象者に限定せずに、図書館に関する認識を広く人々に問う調査は必ずしも容易ではないが、日本においては幸いにして、2014年に国立国会図書館が、全国5,000人を対象としたオンライン調査「図書館利用者の情報行動の傾向及び図書館に関する意識調査」（以下、NDL調査）を実施している⁽²⁾。同調査は楽天リサーチ社のオンラインモニタ登録者を対象に、日本の人口動態にあわせて年齢層・性別・地域に関する回答者の割付を行った上で行われたものである。調査名には「図書館利用者」とされているが、実際には非利用者も含めて、図書館利用行動のみならず、その他のメディア利用行動や属性情報等、豊富なデータを含んだものである。その中には公共図書

館で行われる各サービスに対する重要性の認識、公共図書館に対する様々な意見に関する同意の程度、最寄りの公共図書館の自分や地域にとっての重要性等、公共図書館に対する認識を問う設問も用意されている⁽³⁾。その単純集計結果も既に公表されている。しかし、これは5,000人全体の集計結果を示したにとどまるものである。実際にはその中には様々な異なる特徴を持つ利用者・非利用者が存在し、それぞれに異なる図書館への認識を抱いているはずである。実際にNDL調査のデータを再分析した研究からは、子どもの有無⁽⁴⁾、日常的な他者との会話の有無⁽⁵⁾、社会関係資本等の有無等⁽⁶⁾、様々な属性から利用者をグループ分けし、それぞれに異なる傾向を有していることが示唆されている。このように人々をグループ分けした上でそれぞれの図書館への認識を明らかにすることは、単純集計よりも有益な示唆をもたらすことが期待される。

しかし、回答者のグループ分けをどのような項目に基づき、どういった基準で行うかは、恣意的なものとならざるを得ない。既に述べた家族構成（子どもの有無）や社会関係資本等はもちろん、いわゆる独立変数となりうる項目は無数に存在する。特に設問数の多いNDL調査においてはそれらの全てについて分析し、解釈を加えることは困難である。

そこで本稿では独立変数を別に設定するのではなく、人々の図書館への認識に関わる設問それ自体のデータに基づいて、クラスター分析によって利用者・非利用者をグループ化することを試みる。なんらかの独立変数によるのではなく、図書館に対する認識それ自体の傾向の類似度に基づいて人々をグループ化し、その後で各グループの属性を分析することで、どういったグループが、どういった図書館認識を抱いているか、その対応関係を明らかにすることができると思われる。

2. 分析手法

2.1 分析手法の概要

図書館の利用行動や図書館への認識に基づき利用者・非利用者をクラスター分析にかける試みは、米Pew Research Centerが2014年に公表した人々と図書館の関わりに関する調査報告書（以下、Pew調査）の中で行っている⁽⁷⁾。同調査はNDL調査の企画においても参考にされたものである。

Pew調査では電話調査の結果について、まず回答者を図書館を使ったことがある者（利用者）とない者（非利用者）に分けた上で、それぞれについてクラスター分析を実施している。これは利用者で分析に用いる設問が一部、異なるためである。このうち利用者の分析については、「コミュニティにとっての公共図書館の重要性」、「自身や家族の図書館利用」、「自身の図書館・サービス利用経験」、「図書館の利用目的」、「最

寄りの図書館へのなじみ深さ」、「公共図書館の近さ」、「公共図書館に対するネガティブな印象・経験」に関する25の設問を分析に用いている。Pew 調査ではこれらの設問の回答を、直接クラスター分析にかけるのではなく、まず主成分分析によって次元数を減らした上で、各主成分の得点をクラスター分析にかける、という手順を踏んでいる。主成分分析からは7つの主成分が導出され、それらの主成分に基づくクラスター分析からは利用者を7つのグループ（「図書館大好き人間」(Library Lovers)、「情報雑食人間」(Information Omnivores)、「中心グループ」(Solid Center)、「紙の本大好き人間」(Print Traditionalists)、「今はもう使わない人間」(Not for Me)、「若くて落ち着きのない奴ら」(Young and Restless)、「図書館に行けない人々」(Rooted and Roadblocked)）に分けることができた、とされている。また、非利用者については6つの主成分が導出され、クラスター分析から「敬して遠ざけている人々 (Distant Admirers)」と「孤独な人々 (Off the Grid)」の2グループに分けられたとされている。

本研究においてはこの Pew 調査の手法を踏襲し、まず分析に用いる設問を主成分分析にかけた上で、主成分得点に基づいてクラスター分析を実施することとする。分析に用いる設問、主成分分析、クラスター分析それぞれの詳細は以下のとおりである。

2.2 分析に用いる設問

本研究でも Pew 調査と同様、利用者と非利用者を分けた上で主成分分析とクラスター分析を実施する。これは NDL 調査の場合も Pew 調査と同様に、図書館利用者に限定した設問や、逆に非利用者に限定した設問が存在し、それらの中に図書館に関する意識を検討する上で重要と考えられるものがあるためである。

ただし、利用者と非利用者の分割方法は本研究と Pew 調査では異なる。Pew 調査では現在のみならず、過去にも図書館を利用したことがない者を「非利用者」として分析しているが、本稿では NDL 調査の設問21「あなたは、この1年間（2014年1月～12月）で、公共図書館もしくは移動図書館を使ったことがありますか。」について、「利用した」と回答した者を「利用者」、「この1年は利用しなかったが、1年以上前には利用したことがある」または「この1年は利用しなかったし、過去にも利用したことはない」と回答した者を「非利用者」とすることとした。これは NDL 調査においては「利用した」とした者に利用者向けの設問（利用の目的等）、それ以外の者に非利用者向けの設問（図書館を利用しない理由等）を回答するよう、求めていたためである。この定義における図書館利用者は1,982人、非利用者は3,018人であった。なお、「1年以上前には利用したことがある」と回答した者（過去には図書館を利用したことがある者、1,808人）と「過去にも利用したことはない」と回答した者（図書館を一度も利用したことがない者、1,210人）をさらに区別して分析することも考えられるが、クラスター分析において両者を区

別する必然性は薄いことが確認されており（詳細は分析結果で後述）、本稿では両者を一括して「非利用者」として分析することとした。

図書館利用者について、分析に用いる設問は図1のとおりである。基本的にはPew調査においてクラスター分析に用いられたのと類似の設問を選択しているが、Pew調査に存在する設問のうち図書館利用者カードの保有の有無をはじめ、Pew調査に存在するもののNDL調査には存在しない設問や、回答形式が異なる設問は除いている。逆にPew調査には存在しないものの、図書館の利用目的、図書館において重要視するサー

<p>居住地の都市規模</p> <p>Q24. あなたが公共図書館もしくは移動図書館を利用する主な目的について、あてはまるもの全てを選んでください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 図書、視聴覚資料やその他の図書館資料を借りる／返す 2. 図書、雑誌、新聞などを図書館で閲覧する 3. 図書館で勉強する／仕事をする 4. 図書館で録音資料を聞く、ビデオや映画を観る 5. 図書館のパソコンを利用する 6. 展示やイベント（講演、映画上映会、ワークショップなど）に参加する 7. 研修プログラムに参加する 8. 図書館員に支援、情報、示唆を求める 9. 子どもの図書館利用につきそう 10. その他（具体的に：） <p>Q28. あなたはこの1年間（2014年1月～12月）で公共図書館のウェブサイトを利用したことがありますか。（利用した、過去1年より前に利用した、利用したことはない、の3択）</p> <p>Q31. 公共図書館に関する以下の1～6の意見について、あなたのお考えを選んでください。（非常にそう思う～全くそう思わない＋わからない、の5段階）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公共図書館では、無料で資料の閲覧や、インターネットの利用などができるので、全ての人に平等な機会を与えるのに重要な役割を果たしている 2. 公共図書館には、最新の情報技術が取り入れられていない 3. 必要な情報の多くは自分で探せるようになったので、公共図書館は以前ほど必要とされていない 4. 公共図書館は他で探すための手段がない人に多くのサービスを提供している 5. 公共図書館は、読書好きや教養を育むため、重要である 6. 公共図書館が近くにあることで、その地域の生活の質が向上する <p>Q32. もしあなたの住む地域の公共図書館が閉鎖されたら、あなたやあなたの家族にとって何らかの好ましくない影響があると思いますか。（大きな影響がある～わからない、の5段階）</p> <p>Q33. もしあなたの住む地域の公共図書館が閉鎖されたら、地域にとって何らかの好ましくない影響があると思いますか。（大きな影響がある～わからない、の5段階）</p> <p>Q34. 公共図書館に以下の1～8のサービスがあるとすれば、あなたやあなたの家族にとって、どのくらい重要であるとお考えですか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本やCDなどの無料の貸出 2. 仕事や学習に関する情報の提供 3. インターネットやパソコン、プリンタの提供 4. 読書や勉強をするための場所の提供 5. 講習会や展示会など、イベントの提供 6. 図書館員による調べもののサポート 7. ウェブサイトでの蔵書目録などの情報提供 8. 子ども向けのサービスの提供 <p>Q35. あなたの最もよく利用する公共図書館について、最もよくあてはまるものを選んでください。（素晴らしく、快適な場所～わからない、の5択）</p>

図1. 図書館利用者の分析に用いる設問一覧

ビス等の設問は図書館に対する認識を知る上で重要と考え、分析に用いることとした。なお、一見すると図書館への認識に関わると考えにくい居住地の都市規模を分析に加えているのは、Pew 調査にならったことである。

非利用者に関して分析に用いる設問は図2のとおりである。基本的には利用者の分析に用いる設問をそのまま用いているが、非利用者は回答対象となっていない設問は除いている。逆に非利用者のみが回答対象となっている図書館を使わなかった理由については、図書館への認識を考える上で重要と判断し、分析に追加している。

居住地の都市規模	
Q21.	あなたは、この1年間（2014年1月～12月）で、公共図書館もしくは移動図書館を使ったことがありますか。（利用した、この1年は利用しなかったが、1年以上前には利用したことがある、この1年は利用しなかったし、過去にも利用したことはない、の3択）
Q25.	公共図書館もしくは移動図書館を使わなかった理由について、あてはまるもの全てを選んでください。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 図書館が近くにない 2. 図書館への交通が不便 3. 図書館のサービス時間が短い 4. 図書館の席が空いていない 5. 図書館には読みたい本がない 6. 利用手続が面倒 7. 図書館にどんな本があるかわからない、場所を知らない 8. 公共図書館以外の図書館（図書室）を利用する 9. 電子書籍やウェブサイトの情報で事足りる 10. 本や雑誌は購入する 11. 余暇がない 12. 図書館に行く必要性を感じない、興味がない 13. その他（具体的に：〃）
Q31.	公共図書館に関する以下の1～6の意見について、あなたのお考えを選んでください。（非常にそう思う～全くそう思わない＋わからない、の5段階） <ol style="list-style-type: none"> 1. 公共図書館では、無料で資料の閲覧や、インターネットの利用などができるので、全ての人に平等な機会を与えるのに重要な役割を果たしている 2. 公共図書館には、最新の情報技術が取り入れられていない 3. 必要な情報の多くは自分で探せるようになったので、公共図書館は以前ほど必要とされていない 4. 公共図書館は他で探すための手段がない人に多くのサービスを提供している 5. 公共図書館は、読書好きや教養を育むため、重要である 6. 公共図書館が近くにあることで、その地域の生活の質が向上する
Q32.	もしあなたの住む地域の公共図書館が閉鎖されたら、あなたやあなたの家族にとって何らかの好ましくない影響があると思いますか。（大きな影響がある～わからない、の5段階）
Q33.	もしあなたの住む地域の公共図書館が閉鎖されたら、地域にとって何らかの好ましくない影響があると思いますか。（大きな影響がある～わからない、の5段階）
Q34.	公共図書館に以下の1～8のサービスがあるとすれば、あなたやあなたの家族にとって、どのくらい重要であるとお考えですか。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 本やCDなどの無料の貸出 2. 仕事や学習に関する情報の提供 3. インターネットやパソコン、プリンタの提供 4. 読書や勉強をするための場所の提供 5. 講習会や展示会など、イベントの提供 6. 図書館員による調べもののサポート 7. ウェブサイトでの蔵書目録などの情報提供 8. 子ども向けのサービスの提供

図2. 図書館非利用者の分析に用いる設問一覧

2.3 主成分分析

主成分分析、クラスター分析ともに統計処理ソフト SPSS を用いて実施した。主成分分析についてはバリマックス回転法を用い、回転後の主成分得点の算出には回帰法を用いた。

表1は図書館利用者について、各設問の主成分得点係数行列と、各主成分の寄与率をまとめて示したものである。表のとおり、図書館利用者に関しては7つの主成分が導出された。

表2は非利用者について、同じく各設問の主成分得点係数行列と、各主成分の寄与率をまとめて示したものである。非利用者に関しては10の主成分が導出された。

表1. 図書館利用者の主成分分析結果（寄与率と各設問の主成分得点係数行列）

	第1主成分	2	3	4	5	6	7
寄与率(%)	14.037	12.359	5.963	5.537	4.825	4.747	4.194
都市規模	0.001	-0.101	0.033	0.085	0.073	0.551	-0.264
Q24-1	-0.008	-0.025	0.084	0.024	-0.368	-0.075	-0.364
Q24-2	0.042	-0.077	-0.083	0.044	0.524	0.061	-0.076
Q24-3	-0.007	0.015	0.039	0.031	0.406	-0.031	-0.034
Q24-4	0.030	0.002	0.279	-0.023	0.141	-0.005	-0.088
Q24-5	0.008	0.037	0.207	-0.014	0.191	-0.140	-0.012
Q24-6	0.013	-0.035	0.397	0.029	-0.094	0.097	0.109
Q24-7	0.026	0.005	0.434	-0.071	-0.151	0.101	-0.057
Q24-8	0.009	0.024	0.308	0.022	-0.036	-0.075	0.048
Q24-9	-0.042	-0.015	0.101	0.094	-0.182	0.083	0.411
Q24-10	0.045	-0.044	-0.032	0.009	0.027	-0.191	0.617
Q28	-0.033	0.000	-0.048	-0.056	-0.048	0.459	0.138
Q31-1	-0.060	0.198	0.005	0.187	-0.017	-0.030	-0.056
Q31-2	-0.010	-0.006	-0.015	0.373	-0.009	0.153	0.031
Q31-3	0.004	-0.051	-0.003	0.472	0.036	-0.064	0.052
Q31-4	-0.062	0.191	-0.036	0.238	0.030	-0.082	-0.035
Q31-5	-0.069	0.251	0.022	0.090	0.025	-0.081	-0.059
Q31-6	-0.078	0.244	-0.009	0.097	-0.004	-0.039	-0.040
Q32	-0.042	0.217	-0.005	-0.262	-0.048	0.090	0.003
Q33	-0.045	0.224	-0.005	-0.225	-0.089	0.025	-0.031
Q34-1	0.077	0.087	0.049	-0.089	0.095	0.067	0.059
Q34-2	0.222	-0.057	0.018	-0.020	-0.016	-0.038	0.036
Q34-3	0.221	-0.108	0.026	0.038	-0.066	0.077	0.021
Q34-4	0.201	-0.030	0.060	-0.026	-0.061	-0.072	-0.010
Q34-5	0.217	-0.075	-0.059	0.045	0.053	-0.064	0.034
Q34-6	0.213	-0.063	-0.004	-0.018	0.015	-0.003	0.010
Q34-7	0.148	-0.044	0.049	0.001	0.002	0.264	0.068
Q34-8	0.204	-0.036	0.004	-0.028	0.121	-0.082	-0.135
Q35	-0.029	0.195	0.030	-0.114	-0.055	-0.178	0.017

表 2. 図書館非利用者の主成分分析結果（寄与率と各設問の主成分得点係数行列）

	第 1 主成分	2	3	4	5	6	7	8	9	10
寄与率(%)	19.541	11.682	5.370	4.682	4.086	3.968	3.909	3.737	3.707	3.412
都市規模	-0.010	0.066	-0.178	-0.051	-0.038	-0.187	0.081	-0.001	0.569	-0.030
Q21	-0.009	-0.009	0.008	0.053	-0.131	-0.253	0.207	0.285	-0.077	-0.020
Q25-1	0.008	0.007	-0.012	0.564	-0.030	-0.057	0.031	-0.011	-0.017	-0.035
Q25-2	0.006	0.018	-0.015	0.531	0.002	0.044	0.030	-0.074	-0.037	-0.030
Q25-3	0.011	0.016	-0.044	0.048	-0.165	0.422	0.034	0.091	0.150	0.027
Q25-4	-0.002	0.014	0.112	0.014	0.024	0.601	0.055	-0.176	-0.105	-0.075
Q25-5	0.008	-0.051	0.129	-0.011	-0.006	0.164	-0.023	0.038	0.580	0.026
Q25-6	-0.001	-0.024	0.070	-0.085	0.095	0.028	-0.102	0.506	0.141	-0.001
Q25-7	0.002	-0.012	-0.040	0.029	-0.078	-0.098	0.043	0.567	-0.067	-0.033
Q25-8	0.011	0.017	-0.116	-0.265	-0.042	0.354	0.070	0.345	-0.289	0.006
Q25-9	0.017	0.001	0.049	0.022	0.530	-0.112	-0.002	-0.045	0.052	0.009
Q25-10	0.008	0.055	-0.053	-0.040	0.626	0.020	0.066	0.030	-0.114	-0.072
Q25-11	-0.006	0.009	0.068	-0.073	-0.149	-0.120	-0.747	-0.042	-0.075	-0.143
Q25-12	-0.043	-0.024	0.037	-0.129	-0.196	-0.087	0.465	-0.220	-0.051	-0.240
Q25-13	-0.002	0.011	0.024	-0.038	-0.053	-0.037	0.051	-0.043	-0.006	0.920
Q31-1	-0.048	0.251	-0.007	0.012	-0.034	0.070	-0.040	0.014	0.073	-0.057
Q31-2	-0.066	0.268	-0.079	0.013	0.127	-0.065	0.015	-0.065	-0.152	0.047
Q31-3	-0.051	0.294	-0.185	0.040	0.015	-0.019	-0.050	0.027	-0.065	0.048
Q31-4	-0.062	0.274	-0.040	0.013	-0.002	0.036	0.009	-0.028	0.073	0.013
Q31-5	-0.032	0.208	0.026	-0.021	-0.021	0.054	-0.001	0.015	0.077	-0.008
Q31-6	-0.062	0.219	0.092	-0.033	0.018	0.040	-0.005	-0.031	0.056	-0.012
Q32	-0.052	-0.051	0.561	-0.021	0.037	0.024	-0.039	0.034	-0.027	0.015
Q33	-0.047	-0.049	0.560	-0.007	-0.007	0.048	-0.055	0.011	-0.014	0.033
Q34-1	0.166	-0.056	-0.036	-0.005	-0.011	-0.004	-0.008	0.015	0.009	-0.007
Q34-2	0.178	-0.060	-0.041	0.026	0.027	-0.009	-0.002	-0.021	-0.004	0.011
Q34-3	0.182	-0.043	-0.112	0.000	0.034	0.023	-0.025	-0.009	-0.020	0.002
Q34-4	0.175	-0.061	-0.042	-0.001	0.013	-0.006	0.011	0.017	-0.004	0.011
Q34-5	0.159	-0.041	-0.039	0.016	-0.009	0.005	-0.008	-0.010	0.001	0.030
Q34-6	0.172	-0.053	-0.046	-0.004	0.019	0.001	-0.020	0.030	-0.011	-0.009
Q34-7	0.167	-0.051	-0.047	0.012	-0.004	-0.017	-0.030	-0.020	-0.007	-0.024
Q34-8	0.169	-0.074	-0.004	0.004	0.026	0.037	0.001	0.017	-0.003	0.038

2.4 クラスタ分析

主成分分析で導かれた主成分得点を用い、図書館利用者・非利用者それぞれについてクラスタ分析を行う。手法としては階層クラスタ分析を採用し、クラスタ化の方法としては Ward 法を用いた。何グループに分類するかはデンドログラムと各グループへの所属データ数を確認し、総合的に判断した。

図 3 は図書館利用者、図 4 は非利用者についてのデンドログラムを示したものである。図のデンドログラム及び所属データ数から、図書館利用者については 7 グループ、非利

利用者については6グループに分類することが適切と判断した。図書館利用者、非利用者それぞれの各グループに属するデータ数は表3、表4のとおりである。



図3. 図書館利用者の階層クラスター分析結果（デンドログラム）



図4. 図書館非利用者の階層クラスター分析結果（デンドログラム）

表3. 図書館利用者の各クラスター所属データ数

	第1クラスター	2	3	4	5	6	7	合計
度数	654	83	626	243	172	177	27	1,982
割合	33.0%	4.2%	31.6%	12.3%	8.7%	8.9%	1.4%	-

表4. 図書館非利用者の各クラスター所属データ数

	第1クラスター	2	3	4	5	6	合計
度数	332	437	88	414	1,376	371	3,018
割合	11.0%	14.5%	2.9%	13.7%	45.6%	12.3%	-

2.5 各グループの傾向分析

クラスター分析により導出された利用者7グループ、非利用者6グループについて、グループに属する人々の傾向を把握するために、以下の項目を分析した。次章以降では主としてこの各グループの傾向分析の結果を報告していく。

- ・2014年の図書館利用頻度（Q23、図書館利用者限定）
- ・2014年の図書館利用経験（Q21、非利用者限定）
- ・図書館の利用目的（Q24、利用者限定）
- ・図書館を使わなかった理由（Q25、非利用者限定）
- ・図書館ウェブサイトの利用経験（Q28、利用者限定）
- ・図書館に対する意見（Q31）
- ・自身の住む地域の公共図書館が閉鎖された場合の、自身や家族への影響認識（Q32）
- ・自身の住む地域の公共図書館が閉鎖された場合の、地域への影響認識（Q33）
- ・図書館の各サービスの重要性認識（Q34）
- ・当該地域への愛着、地域活動への参加（Q16、17）
- ・各メディアへの接触頻度（Q5）
- ・（図書館以外の）文化活動の頻度（Q7）
- ・居住地域の都市規模
- ・その他の属性情報（年齢、性別、世帯年収、職業、学歴、家族構成）

3. 結果

3.1 図書館利用者のクラスター分析結果

(1) 分析結果の概要

表5～31は図書館利用者の各クラスターについて、傾向分析の結果を示したものである。表の数が必要以上に増えるため、メディアへの接触頻度や文化活動の頻度のうち、大きな特徴のなかった項目は表としていない。また、属性情報のうち世帯年収と職業についても表にすることは見送った。後者については明確な特徴のあったクラスターについては、次項以降の記述で必要に応じ触れる場合がある。

次項以降ではこれらの表を参照しつつ、第1～第7クラスターの特徴と、それぞれの図書館への認識について確認していく。

表5. 図書館利用者各クラスターの2014年の図書館利用頻度 (Q23)

		1	2	3	4	5	6	7	全体
週に1回以上	度数	71	11	72	15	45	15	6	235
	割合	10.9%	13.3%	11.5%	6.2%	26.2%	8.5%	22.2%	11.9%
月に数回程度	度数	229	28	239	57	69	66	5	693
	割合	35.0%	33.7%	38.2%	23.5%	40.1%	37.3%	18.5%	35.0%
月に1回程度	度数	161	14	143	58	31	24	4	435
	割合	24.6%	16.9%	22.8%	23.9%	18.0%	13.6%	14.8%	21.9%
年に数回程度	度数	193	30	172	113	27	72	12	619
	割合	29.5%	36.1%	27.5%	46.5%	15.7%	40.7%	44.4%	31.2%

表6. 図書館利用者各クラスターの2014年の図書館利用目的 (Q24)

		1	2	3	4	5	6	7	全体
資料の貸出・返却	度数	635	59	620	34	130	118	9	1605
	割合	97.1%	71.1%	99.0%	14.0%	75.6%	66.7%	33.3%	81.0%
資料の館内閲覧	度数	242	29	295	213	120	59	10	968
	割合	37.0%	34.9%	47.1%	87.7%	69.8%	33.3%	37.0%	48.8%
館内での勉強や仕事	度数	38	9	31	84	62	8	3	235
	割合	5.8%	10.8%	5.0%	34.6%	36.0%	4.5%	11.1%	11.9%
視聴覚資料の館内利用	度数	0	0	0	1	60	1	0	62
	割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%	34.9%	0.6%	0.0%	3.1%
館内でのPC利用	度数	11	0	0	6	57	0	1	75
	割合	1.7%	0.0%	0.0%	2.5%	33.1%	0.0%	3.7%	3.8%
展示やイベントへの参加	度数	0	1	1	2	67	53	5	129
	割合	0.0%	1.2%	0.2%	0.8%	39.0%	29.9%	18.5%	6.5%
研修への参加	度数	0	1	0	0	32	0	0	33
	割合	0.0%	1.2%	0.0%	0.0%	18.6%	0.0%	0.0%	1.7%
図書館員の支援	度数	0	2	0	0	37	1	1	41
	割合	0.0%	2.4%	0.0%	0.0%	21.5%	0.6%	3.7%	2.1%
子どもの利用付き添い	度数	3	11	16	7	14	134	4	189
	割合	0.5%	13.3%	2.6%	2.9%	8.1%	75.7%	14.8%	9.5%
その他	度数	0	0	0	0	0	0	27	27
	割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	1.4%

表7. 図書館利用者各クラスターの図書館ウェブサイト利用経験 (Q28)

		1	2	3	4	5	6	7	全体
利用した	度数	367	21	203	39	102	41	7	780
	割合	56.1%	25.3%	32.4%	16.0%	59.3%	23.2%	25.9%	39.4%
過去に利用したことがある	度数	80	8	78	45	21	21	1	254
	割合	12.2%	9.6%	12.5%	18.5%	12.2%	11.9%	3.7%	12.8%
利用したことはない	度数	207	54	345	159	49	115	19	948
	割合	31.7%	65.1%	55.1%	65.4%	28.5%	65.0%	70.4%	47.8%

表 8. 図書館利用者各クラスターの
「公共図書館は全ての人に平等な機会を与えるのに重要」認識 (Q31-1)

		1	2	3	4	5	6	7	全体
非常にそう思う	度数	149	2	218	49	65	47	11	541
	割合	22.8%	2.4%	34.8%	20.2%	37.8%	26.6%	40.7%	27.3%
そう思う	度数	411	11	348	154	96	110	15	1145
	割合	62.8%	13.3%	55.6%	63.4%	55.8%	62.1%	55.6%	57.8%
そう思わない	度数	64	7	41	29	7	16	0	164
	割合	9.8%	8.4%	6.5%	11.9%	4.1%	9.0%	0.0%	8.3%
全くそう思わない	度数	9	4	7	6	1	0	1	28
	割合	1.4%	4.8%	1.1%	2.5%	0.6%	0.0%	3.7%	1.4%
わからない	度数	21	59	12	5	3	4	0	104
	割合	3.2%	71.1%	1.9%	2.1%	1.7%	2.3%	0.0%	5.2%

表 9. 図書館利用者各クラスターの
「公共図書館には最新の情報技術が取り入れられていない」認識 (Q31-2)

		1	2	3	4	5	6	7	全体
非常にそう思う	度数	56	1	31	10	16	8	1	123
	割合	8.6%	1.2%	5.0%	4.1%	9.3%	4.5%	3.7%	6.2%
そう思う	度数	275	3	146	81	68	47	12	632
	割合	42.0%	3.6%	23.3%	33.3%	39.5%	26.6%	44.4%	31.9%
そう思わない	度数	244	7	322	124	74	80	11	862
	割合	37.3%	8.4%	51.4%	51.0%	43.0%	45.2%	40.7%	43.5%
全くそう思わない	度数	27	3	57	11	8	19	0	125
	割合	4.1%	3.6%	9.1%	4.5%	4.7%	10.7%	0.0%	6.3%
わからない	度数	52	69	70	17	6	23	3	240
	割合	8.0%	83.1%	11.2%	7.0%	3.5%	13.0%	11.1%	12.1%

表10. 図書館利用者各クラスターの「必要な情報の多くは自分で探せるようになったので、
公共図書館は以前ほど必要とされていない」認識 (Q31-3)

		1	2	3	4	5	6	7	全体
非常にそう思う	度数	33	0	16	5	12	3	1	70
	割合	5.0%	0.0%	2.6%	2.1%	7.0%	1.7%	3.7%	3.5%
そう思う	度数	176	1	96	89	43	30	10	445
	割合	26.9%	1.2%	15.3%	36.6%	25.0%	16.9%	37.0%	22.5%
そう思わない	度数	298	16	327	111	71	78	9	910
	割合	45.6%	19.3%	52.2%	45.7%	41.3%	44.1%	33.3%	45.9%
全くそう思わない	度数	135	9	170	35	40	61	5	455
	割合	20.6%	10.8%	27.2%	14.4%	23.3%	34.5%	18.5%	23.0%
わからない	度数	12	57	17	3	6	5	2	102
	割合	1.8%	68.7%	2.7%	1.2%	3.5%	2.8%	7.4%	5.1%

表11. 図書館利用者各クラスターの

「公共図書館は自分で探す手段のない人に多くのサービスを提供している」認識 (Q31-4)

		1	2	3	4	5	6	7	全体
非常にそう思う	度数	101	0	146	34	46	36	7	370
	割合	15.4%	0.0%	23.3%	14.0%	26.7%	20.3%	25.9%	18.7%
そう思う	度数	408	7	384	153	99	106	15	1172
	割合	62.4%	8.4%	61.3%	63.0%	57.6%	59.9%	55.6%	59.1%
そう思わない	度数	110	4	61	45	19	25	3	267
	割合	16.8%	4.8%	9.7%	18.5%	11.0%	14.1%	11.1%	13.5%
全くそう思わない	度数	5	2	8	3	3	6	1	28
	割合	0.8%	2.4%	1.3%	1.2%	1.7%	3.4%	3.7%	1.4%
わからない	度数	30	70	27	8	5	4	1	145
	割合	4.6%	84.3%	4.3%	3.3%	2.9%	2.3%	3.7%	7.3%

表12. 図書館利用者各クラスターの

「公共図書館は読書好きや教養を育むため重要である」認識 (Q31-5)

		1	2	3	4	5	6	7	全体
非常にそう思う	度数	219	4	326	71	77	85	13	795
	割合	33.5%	4.8%	52.1%	29.2%	44.8%	48.0%	48.1%	40.1%
そう思う	度数	396	28	286	151	89	84	14	1048
	割合	60.6%	33.7%	45.7%	62.1%	51.7%	47.5%	51.9%	52.9%
そう思わない	度数	30	3	12	16	4	7	0	72
	割合	4.6%	3.6%	1.9%	6.6%	2.3%	4.0%	0.0%	3.6%
全くそう思わない	度数	4	3	1	3	0	1	0	12
	割合	0.6%	3.6%	0.2%	1.2%	0.0%	0.6%	0.0%	0.6%
わからない	度数	5	45	1	2	2	0	0	55
	割合	0.8%	54.2%	0.2%	0.8%	1.2%	0.0%	0.0%	2.8%

表13. 図書館利用者各クラスターの

「公共図書館が近くにあることで地域の生活の質が向上する」認識 (Q31-6)

		1	2	3	4	5	6	7	全体
非常にそう思う	度数	151	2	203	50	67	52	7	532
	割合	23.1%	2.4%	32.4%	20.6%	39.0%	29.4%	25.9%	26.8%
そう思う	度数	397	23	375	139	92	98	15	1139
	割合	60.7%	27.7%	59.9%	57.2%	53.5%	55.4%	55.6%	57.5%
そう思わない	度数	63	3	30	40	8	21	1	166
	割合	9.6%	3.6%	4.8%	16.5%	4.7%	11.9%	3.7%	8.4%
全くそう思わない	度数	12	2	4	5	1	3	2	29
	割合	1.8%	2.4%	0.6%	2.1%	0.6%	1.7%	7.4%	1.5%
わからない	度数	31	53	14	9	4	3	2	116
	割合	4.7%	63.9%	2.2%	3.7%	2.3%	1.7%	7.4%	5.9%

表14. 図書館利用者各クラスターの、自身の住む地域の図書館が閉館された場合の
自身や家族への影響の程度認識 (Q32)

		1	2	3	4	5	6	7	全体
大きな影響がある	度数	177	21	240	42	77	64	8	629
	割合	27.1%	25.3%	38.3%	17.3%	44.8%	36.2%	29.6%	31.7%
影響がある	度数	327	29	325	122	67	76	14	960
	割合	50.0%	34.9%	51.9%	50.2%	39.0%	42.9%	51.9%	48.4%
あまり影響はない	度数	109	14	56	62	24	32	4	301
	割合	16.7%	16.9%	8.9%	25.5%	14.0%	18.1%	14.8%	15.2%
影響はない	度数	30	6	5	10	3	4	1	59
	割合	4.6%	7.2%	0.8%	4.1%	1.7%	2.3%	3.7%	3.0%
わからない	度数	11	13	0	7	1	1	0	33
	割合	1.7%	15.7%	0.0%	2.9%	0.6%	0.6%	0.0%	1.7%

表15. 図書館利用者各クラスターの、自身の住む地域の図書館が閉館された場合の
地域への影響の程度認識 (Q33)

		1	2	3	4	5	6	7	全体
大きな影響がある	度数	144	19	233	42	74	61	9	582
	割合	22.0%	22.9%	37.2%	17.3%	43.0%	34.5%	33.3%	29.4%
影響がある	度数	339	26	349	130	72	76	13	1005
	割合	51.8%	31.3%	55.8%	53.5%	41.9%	42.9%	48.1%	50.7%
あまり影響はない	度数	88	15	33	53	18	32	5	244
	割合	13.5%	18.1%	5.3%	21.8%	10.5%	18.1%	18.5%	12.3%
影響はない	度数	29	5	3	7	5	2	0	51
	割合	4.4%	6.0%	0.5%	2.9%	2.9%	1.1%	0.0%	2.6%
わからない	度数	54	18	8	11	3	6	0	100
	割合	8.3%	21.7%	1.3%	4.5%	1.7%	3.4%	0.0%	5.0%

表16. 図書館利用者各クラスターの図書館サービスとしての
「本やCDなどの無料の貸出」の重要性認識 (Q34-1)

		1	2	3	4	5	6	7	全体
とても重要	度数	393	34	423	85	101	112	14	1162
	割合	60.1%	41.0%	67.6%	35.0%	58.7%	63.3%	51.9%	58.6%
いくらか重要	度数	196	16	178	123	57	49	11	630
	割合	30.0%	19.3%	28.4%	50.6%	33.1%	27.7%	40.7%	31.8%
あまり重要ではない	度数	42	9	21	29	13	13	1	128
	割合	6.4%	10.8%	3.4%	11.9%	7.6%	7.3%	3.7%	6.5%
重要ではない	度数	19	3	4	5	0	3	0	34
	割合	2.9%	3.6%	0.6%	2.1%	0.0%	1.7%	0.0%	1.7%
わからない	度数	4	21	0	1	1	0	1	28
	割合	0.6%	25.3%	0.0%	0.4%	0.6%	0.0%	3.7%	1.4%

表17. 図書館利用者各クラスターの図書館サービスとしての
「仕事や学習に関する情報の提供」の重要性認識 (Q34-2)

		1	2	3	4	5	6	7	全体
とても重要	度数	111	15	173	55	65	54	4	477
	割合	17.0%	18.1%	27.6%	22.6%	37.8%	30.5%	14.8%	24.1%
いくらか重要	度数	293	26	311	137	79	77	14	937
	割合	44.8%	31.3%	49.7%	56.4%	45.9%	43.5%	51.9%	47.3%
あまり重要ではない	度数	141	15	123	43	22	34	5	383
	割合	21.6%	18.1%	19.6%	17.7%	12.8%	19.2%	18.5%	19.3%
重要ではない	度数	80	5	17	7	4	10	2	125
	割合	12.2%	6.0%	2.7%	2.9%	2.3%	5.6%	7.4%	6.3%
わからない	度数	29	22	2	1	2	2	2	60
	割合	4.4%	26.5%	0.3%	0.4%	1.2%	1.1%	7.4%	3.0%

表18. 図書館利用者各クラスターの図書館サービスとしての
「インターネット等の提供」の重要性認識 (Q34-3)

		1	2	3	4	5	6	7	全体
とても重要	度数	94	11	88	45	50	24	6	318
	割合	14.4%	13.3%	14.1%	18.5%	29.1%	13.6%	22.2%	16.0%
いくらか重要	度数	241	22	290	114	83	70	12	832
	割合	36.9%	26.5%	46.3%	46.9%	48.3%	39.5%	44.4%	42.0%
あまり重要ではない	度数	199	21	201	67	31	55	7	581
	割合	30.4%	25.3%	32.1%	27.6%	18.0%	31.1%	25.9%	29.3%
重要ではない	度数	99	7	35	14	6	27	1	189
	割合	15.1%	8.4%	5.6%	5.8%	3.5%	15.3%	3.7%	9.5%
わからない	度数	21	22	12	3	2	1	1	62
	割合	3.2%	26.5%	1.9%	1.2%	1.2%	0.6%	3.7%	3.1%

表19. 図書館利用者各クラスターの図書館サービスとしての
「場所の提供」の重要性認識 (Q34-4)

		1	2	3	4	5	6	7	全体
とても重要	度数	139	19	249	82	76	74	12	651
	割合	21.3%	22.9%	39.8%	33.7%	44.2%	41.8%	44.4%	32.8%
いくらか重要	度数	301	25	288	126	62	65	7	874
	割合	46.0%	30.1%	46.0%	51.9%	36.0%	36.7%	25.9%	44.1%
あまり重要ではない	度数	135	13	77	24	30	31	7	317
	割合	20.6%	15.7%	12.3%	9.9%	17.4%	17.5%	25.9%	16.0%
重要ではない	度数	65	7	11	11	3	7	0	104
	割合	9.9%	8.4%	1.8%	4.5%	1.7%	4.0%	0.0%	5.2%
わからない	度数	14	19	1	0	1	0	1	36
	割合	2.1%	22.9%	0.2%	0.0%	0.6%	0.0%	3.7%	1.8%

クラスター分析による図書館利用者・非利用者のグループ化

表20. 図書館利用者各クラスターの図書館サービスとしての
「イベントの提供」の重要性認識 (Q34-5)

		1	2	3	4	5	6	7	全体
とても重要	度数	57	6	88	30	57	30	5	273
	割合	8.7%	7.2%	14.1%	12.3%	33.1%	16.9%	18.5%	13.8%
いづらか重要	度数	253	21	315	129	82	83	12	895
	割合	38.7%	25.3%	50.3%	53.1%	47.7%	46.9%	44.4%	45.2%
あまり重要ではない	度数	207	28	187	66	24	45	4	561
	割合	31.7%	33.7%	29.9%	27.2%	14.0%	25.4%	14.8%	28.3%
重要ではない	度数	105	7	29	13	4	18	3	179
	割合	16.1%	8.4%	4.6%	5.3%	2.3%	10.2%	11.1%	9.0%
わからない	度数	32	21	7	5	5	1	3	74
	割合	4.9%	25.3%	1.1%	2.1%	2.9%	0.6%	11.1%	3.7%

表21. 図書館利用者各クラスターの図書館サービスとしての
「図書館員による調べものサポート」の重要性認識 (Q34-6)

		1	2	3	4	5	6	7	全体
とても重要	度数	85	13	132	41	57	42	6	376
	割合	13.0%	15.7%	21.1%	16.9%	33.1%	23.7%	22.2%	19.0%
いづらか重要	度数	276	30	310	123	80	78	11	908
	割合	42.2%	36.1%	49.5%	50.6%	46.5%	44.1%	40.7%	45.8%
あまり重要ではない	度数	181	14	156	59	30	43	7	490
	割合	27.7%	16.9%	24.9%	24.3%	17.4%	24.3%	25.9%	24.7%
重要ではない	度数	79	5	19	14	3	10	1	131
	割合	12.1%	6.0%	3.0%	5.8%	1.7%	5.6%	3.7%	6.6%
わからない	度数	33	21	9	6	2	4	2	77
	割合	5.0%	25.3%	1.4%	2.5%	1.2%	2.3%	7.4%	3.9%

表22. 図書館利用者各クラスターの図書館サービスとしての
「蔵書目録などの提供」の重要性認識 (Q34-7)

		1	2	3	4	5	6	7	全体
とても重要	度数	237	21	199	52	74	41	8	632
	割合	36.2%	25.3%	31.8%	21.4%	43.0%	23.2%	29.6%	31.9%
いづらか重要	度数	268	17	294	117	64	83	12	855
	割合	41.0%	20.5%	47.0%	48.1%	37.2%	46.9%	44.4%	43.1%
あまり重要ではない	度数	93	18	103	64	27	33	2	340
	割合	14.2%	21.7%	16.5%	26.3%	15.7%	18.6%	7.4%	17.2%
重要ではない	度数	35	5	21	4	1	17	3	86
	割合	5.4%	6.0%	3.4%	1.6%	0.6%	9.6%	11.1%	4.3%
わからない	度数	21	22	9	6	6	3	2	69
	割合	3.2%	26.5%	1.4%	2.5%	3.5%	1.7%	7.4%	3.5%

表23. 図書館利用者各クラスターの図書館サービスとしての
「子ども向けのサービスの提供」の重要性認識 (Q34-8)

		1	2	3	4	5	6	7	全体
とても重要	度数	126	21	220	64	63	102	13	609
	割合	19.3%	25.3%	35.1%	26.3%	36.6%	57.6%	48.1%	30.7%
いくらか重要	度数	268	17	256	118	64	59	6	788
	割合	41.0%	20.5%	40.9%	48.6%	37.2%	33.3%	22.2%	39.8%
あまり重要ではない	度数	120	16	98	43	28	12	4	321
	割合	18.3%	19.3%	15.7%	17.7%	16.3%	6.8%	14.8%	16.2%
重要ではない	度数	102	6	34	12	7	4	3	168
	割合	15.6%	7.2%	5.4%	4.9%	4.1%	2.3%	11.1%	8.5%
わからない	度数	38	23	18	6	10	0	1	96
	割合	5.8%	27.7%	2.9%	2.5%	5.8%	0.0%	3.7%	4.8%

表24. 図書館利用者各クラスターの地域への愛着 (Q16)

		1	2	3	4	5	6	7	全体
強く感じている	度数	119	12	109	44	44	42	5	375
	割合	18.2%	14.5%	17.4%	18.1%	25.6%	23.7%	18.5%	18.9%
感じている	度数	397	48	406	146	108	104	17	1226
	割合	60.7%	57.8%	64.9%	60.1%	62.8%	58.8%	63.0%	61.9%
感じていない	度数	112	15	97	43	13	26	3	309
	割合	17.1%	18.1%	15.5%	17.7%	7.6%	14.7%	11.1%	15.6%
全く感じていない	度数	26	8	14	10	7	5	2	72
	割合	4.0%	9.6%	2.2%	4.1%	4.1%	2.8%	7.4%	3.6%

表25. 図書館利用者各クラスターの地域活動への参加 (Q17)

		1	2	3	4	5	6	7	全体
よく参加する	度数	62	8	94	33	39	29	4	269
	割合	9.5%	9.6%	15.0%	13.6%	22.7%	16.4%	14.8%	13.6%
ときどき参加する	度数	196	21	225	77	71	86	10	686
	割合	30.0%	25.3%	35.9%	31.7%	41.3%	48.6%	37.0%	34.6%
参加したことがある	度数	192	20	189	68	39	40	6	554
	割合	29.4%	24.1%	30.2%	28.0%	22.7%	22.6%	22.2%	28.0%
参加したことがない	度数	204	34	118	65	23	22	7	473
	割合	31.2%	41.0%	18.8%	26.7%	13.4%	12.4%	25.9%	23.9%

表26. 図書館利用者各クラスターの本を読む頻度 (Q5-4)

		1	2	3	4	5	6	7	全体
1日複数回	度数	114	10	130	24	35	23	3	339
	割合	17.4%	12.0%	20.8%	9.9%	20.3%	13.0%	11.1%	17.1%
毎日	度数	157	12	140	51	57	33	8	458
	割合	24.0%	14.5%	22.4%	21.0%	33.1%	18.6%	29.6%	23.1%
週1	度数	172	19	164	80	47	40	4	526
	割合	26.3%	22.9%	26.2%	32.9%	27.3%	22.6%	14.8%	26.5%
月1	度数	87	17	93	30	15	29	1	272
	割合	13.3%	20.5%	14.9%	12.3%	8.7%	16.4%	3.7%	13.7%
年に数回	度数	59	9	63	32	11	18	6	198
	割合	9.0%	10.8%	10.1%	13.2%	6.4%	10.2%	22.2%	10.0%
ほぼない	度数	50	10	30	23	6	31	4	154
	割合	7.6%	12.0%	4.8%	9.5%	3.5%	17.5%	14.8%	7.8%
全くない	度数	15	6	6	3	1	3	1	35
	割合	2.3%	7.2%	1.0%	1.2%	0.6%	1.7%	3.7%	1.8%

表27. 図書館利用者各クラスターの博物館等の来訪頻度 (Q7-1)

		1	2	3	4	5	6	7	全体
よく行く	度数	47	2	43	8	29	8	1	138
	割合	7.2%	2.4%	6.9%	3.3%	16.9%	4.5%	3.7%	7.0%
たまに行く	度数	327	25	327	129	101	81	14	1004
	割合	50.0%	30.1%	52.2%	53.1%	58.7%	45.8%	51.9%	50.7%
ほとんど行かない	度数	249	39	229	91	39	83	11	741
	割合	38.1%	47.0%	36.6%	37.4%	22.7%	46.9%	40.7%	37.4%
全く行かない	度数	25	12	21	13	2	3	1	77
	割合	3.8%	14.5%	3.4%	5.3%	1.2%	1.7%	3.7%	3.9%
わからない	度数	6	5	6	2	1	2	0	22
	割合	0.9%	6.0%	1.0%	0.8%	0.6%	1.1%	0.0%	1.1%

表28. 図書館利用者各クラスターの年齢

	平均値	中央値	標準偏差	度数
1	51.67	53.00	16.464	654
2	48.33	45.00	16.700	83
3	55.12	58.00	16.365	626
4	52.05	52.00	17.334	243
5	55.14	61.00	18.319	172
6	48.49	43.00	14.533	177
7	59.37	67.00	15.685	27
全体	52.79	53.00	16.698	1982

表29. 図書館利用者各クラスターの性別

		1	2	3	4	5	6	7	全体
男性	度数	298	32	247	143	83	72	8	883
	割合	45.6%	38.6%	39.5%	58.8%	48.3%	40.7%	29.6%	44.6%
女性	度数	356	51	379	100	89	105	19	1099
	割合	54.4%	61.4%	60.5%	41.2%	51.7%	59.3%	70.4%	55.4%

表30. 図書館利用者各クラスターの居住都市規模

		1	2	3	4	5	6	7	全体
指定市・特別区	度数	358	27	92	73	52	52	10	664
	割合	54.7%	32.5%	14.7%	30.0%	30.2%	29.4%	37.0%	33.5%
中核市	度数	115	9	80	37	33	34	5	313
	割合	17.6%	10.8%	12.8%	15.2%	19.2%	19.2%	18.5%	15.8%
特例市	度数	34	9	69	19	10	12	2	155
	割合	5.2%	10.8%	11.0%	7.8%	5.8%	6.8%	7.4%	7.8%
その他の市区町村	度数	147	38	385	114	77	79	10	850
	割合	22.5%	45.8%	61.5%	46.9%	44.8%	44.6%	37.0%	42.9%

表31. 図書館利用者各クラスターの子どもの有無

		1	2	3	4	5	6	7	全体
子どもなし	度数	444	46	411	162	124	44	19	1250
	割合	67.9%	55.4%	65.7%	66.7%	72.1%	24.9%	70.4%	63.1%
子どもあり	度数	210	37	215	81	48	133	8	732
	割合	32.1%	44.6%	34.3%	33.3%	27.9%	75.1%	29.6%	36.9%

(2) 第1クラスター：都市在住・貸出を中心とする平均的図書館利用者

654人が属する、図書館利用者中で最大のクラスターである。大都市（政令指定都市と東京特別区）居住者が突出して多い。居住地域に愛着は感じているが、地域活動への参加は低調である。年齢・性別・家族構成等に大きな特徴はない。読書や博物館等への来訪頻度も、図書館利用者の中では平均的である。

図書館の利用頻度（表5）も平均程度である。利用目的（表6）は専ら貸出であり、他の利用はほとんどしない。図書館ウェブサイトの利用（表7）は平均より多い。

図書館への認識（表8～13）については最新技術の取り入れが少ないと思う者がやや多いが、他は平均的である。図書館が閉館された場合の影響（表14・15）については、自分や家族への影響の見積りは平均程度であるが、地域への影響については低めに見積もっている。各サービスの重要性認識（表16～23）については、仕事・勉強に関する情報提供、場所の提供、イベントの提供、子ども向けのサービスへの重要性認識が低い。

総じて、このグループは大都市に居住し、貸出のために図書館を利用する、平均的な図書館利用者と言える。都市住民らしく地域活動等の意識は低く、地域を支える図書館という認識もあまりない。図書館は本を借りる場所と考えており、他のサービスはあまり期待していない。

(3) 第2クラスター：消極的図書館利用者

83人が属する、小規模クラスターである。居住地の都市規模に特徴はない。居住地域への愛着はやや弱く、地域活動への参加も低調である。年齢は若く、女性の比率がやや高い。子どもがいる者がやや多く、職業はやや無職が多く、学歴は高卒・短大卒がやや多い。読書や博物館等への来訪頻度は、他の図書館利用者に比べて少ない。

図書館の利用頻度（表5）は平均程度である。利用目的（表6）は子どもの付き添い利用がやや多いことを除き、他のクラスターよりもいずれも選択者の割合が少ない。図書館ウェブサイトの利用（表7）は平均より少ない。

図書館への認識（表8～13）についてはあらゆる設問について「わからない」が突出して高く、全てで50%以上、中には80%以上の設問もある。図書館が閉館された場合の影響（表14・15）も「わからない」選択者が他より多く、各サービスの重要性認識（表16～23）についても「わからない」が多い。

総じてこのグループは図書館について、使ってはいるものの、その存在意義や価値を「あまりよくわからない」と考えている、あるいはあまり考えたことがない人々である。このグループは図書館に対し特に積極的な意見は抱いていない。

(4) 第3クラスター：地方在住・貸出を中心とする図書館愛好者

626人が属する、図書館利用者中で第二位の規模のクラスターである。指定市や特別区、中核市、特例市以外の、非都市圏の市区町村の居住者が突出して多い。居住地域への愛着・地域活動への参加は平均程度である。年齢は平均よりやや高く、女性が多い。家族構成に大きな特徴はない。読書の頻度が図書館利用者の中でも高めである。

図書館の利用頻度（表5）は平均程度である。利用目的（表6）は専ら貸出であり、館内閲覧も第1クラスターよりはするものの、その他の利用は低調である。図書館ウェブサイトの利用（表7）は平均より少ない。

図書館への認識（表8～13）については肯定的な意見に同意する割合が高く、否定的な意見には同意しない者が多い。図書館が閉館された場合の影響（表14・15）については、自分や家族のみならず、地域にとっても大きな影響があると考えている。各サービスの重要性認識（表16～23）については、インターネット等の提供以外はあらゆるサービスが重要と考えており、特に貸出を重要視している。

貸出を中心に図書館を利用する層である、という点で第3クラスターと第1クラスターは似ているが、第3クラスターは地方在住者で占められている点、図書館を使っているだけではなく肯定的に評価し、存在を重視するなど強く支持している点、読書頻度が多い点等が異なる。地方に住む本好きの人々が、貸出を中心とする現在の図書館の「愛好者」層を成していると言えるだろう。

(5) 第4クラスター：場としての図書館利用者

234人が属する中規模クラスターである。居住地の都市規模や地域への愛着、地域参加、年齢、家族構成に特徴はないが、性別は男性が多い。読書頻度は少なめである。

図書館の利用頻度（表5）は他クラスターに比べ顕著に少ない。利用目的（表6）については貸出を選ぶ者が顕著に少なく（14%）、館内閲覧を行う者が顕著に多い（88%）。勉強のための図書館利用もやや多めである。図書館ウェブサイトの利用（表7）は少ない。

図書館への認識（表8～13）については「必定な情報の多くは自分で探せるようになったので、公共図書館は以前ほど必要とされていない」という認識に同意する者の割合が高い。図書館が閉館された場合の影響（表14・15）については、自分や家族にも、地域社会にとっても大きな影響はないと考えている。各サービスの重要性認識（表16～23）については、貸出を重要視する者が他クラスターよりやや少なく、読書のための場所の提供への期待がやや高い。また、ウェブでの蔵書目録の検索等があまり重視されず、子ども向けサービスへの期待はやや高い。

第4クラスターの特徴は本をあまり読まず、図書館の貸出機能もあまり重視していない点にある。専ら場としての図書館を利用しているグループであり、図書館に主に期待する機能も場所の提供である。しかし、場としての図書館を利用はしていても、図書館をあまり重要な機関とは考えていない点もこのグループの特徴である。

(6) 第5クラスター：情報拠点・コミュニティの基盤としての図書館愛好者

172人が属する中規模クラスターである。居住地の都市規模に特徴はないが、地域への愛着や地域参加の程度は平均を大きく上回る。年齢は平均より突出して高く（中央値で61）、男性が多い。退職者の割合が高く、学歴は大卒が多く、同居している子どもがいる家庭は少ない。他のクラスターより読書の頻度が多く、博物館等の来訪頻度も平均を大きく上回る。

図書館の利用頻度（表5）は他クラスターに比べ顕著に多い。利用目的（表6）については貸出が平均より若干少ないものの、その他は子どもの付き添い以外、あらゆる利用形態が他クラスターより多い。図書館ウェブサイトの利用経験者（表7）も全クラス

ター中、最も多い。

図書館への認識（表8～13）については、図書館は情報アクセスの機会を提供する重要な機関と認識しており、図書館の存在によって地域の生活の質も向上すると考えているが、一方で「必定な情報の多くは自分で探せるようになったので、公共図書館は以前ほど必要とされていない」という認識に同意する者の割合もやや高い。図書館が閉館された場合の影響（表14・15）については、自分や家族にも、地域社会にとっても大きな影響があると考えている。各サービスの重要性認識（表16～23）については、貸出を重要視する者がやや他クラスターより少ない一方で、他のほとんどのサービスは他クラスターよりも重要性を高く見積もっている。

第5クラスターは貸出や館内閲覧に限らず、仕事や調べ物のための情報提供、レファレンス、イベント実施等、図書館のサービスを多面的に活用しており、また図書館はそういったサービスを提供する機関であるとも認識しているグループである。いわゆる「地域の情報拠点」や「コミュニティの基盤」としての図書館像を共有しているのがこのグループである。地域活動や文化活動への参加も積極的で、自身の住む地域に関する問題意識を持っているからこそその傾向であるとも考えられる。図書館関係者が思い描くような図書館の理想像を共有しているのがこのクラスターである。そういった人々が、専ら高齢で仕事をすでに退職した、時間的余裕のある高学歴者で占められている点が今回の分析から明らかになったと言えよう。ただし、このような利用者グループは図書館利用者全体から見れば小規模に限られている点にも留意が要る。

(7) 第6クラスター：子どもの図書館利用同行者

177人が属する中規模クラスターである。居住地の都市規模に特徴はなく、地域への愛着も平均程度であるが、地域参加の程度はやや平均を上回る。年齢は平均より突出して低く（中央値で43）、女性が多い。被雇用者と家事専業の割合が高く、4分の3の回答者は同居している子どもがいる。他のクラスターより読書の頻度が少なく、博物館等の来訪頻度も平均を下回る。

図書館の利用頻度（表5）は他クラスターに比べやや少ない。利用目的（表6）については貸出が平均より少なく（3分の1が本を借りない）、館内閲覧もあまりせず、他の利用形態もあまり選ばれていない。その中でイベントへの参加は平均をやや上回り、何より子どもの図書館利用に付き添うために図書館を訪れるとする者が突出して多い（75%）。図書館ウェブサイトの利用（表7）は低調である。

図書館への認識（表8～13）については、図書館は読書好き・教養を育む上で重要と考えている。図書館が閉館された場合の影響（表14・15）については他クラスターと大きな差はない。各サービスの重要性認識（表16～23）については、子ども向けのサービ

スを過半数（58%）が「とても重要」としている点に特徴がある。

このグループは自分のためではなく、子ども（おそらくはまだ一人では来館できない子ども）を図書館に連れてくるために図書館を訪れる人々であり、その多くは母親である。あくまで子どもの利用への付き添いであって、自分が本を借りる頻度は他クラスターより少なく、その他の利用も低調である。このようなグループの存在はNDLデータを用いた佐藤の先行研究でも確認されていたが⁽⁸⁾、クラスター分析でも独自のクラスターとして導出された。

(8) 第7クラスター：非定型図書館利用者

27人のみが属する最小のクラスターである。居住地の都市規模、地域への愛着、地域参加等に特徴はない。年齢は中央値で67歳と高く、女性が70%以上を占め、大半が家事専業者と退職者である。

属する人数が少ないため各項目に関してははっきりした特徴を述べるのは難しい（回答が分散している）が、このクラスターを最も特徴づけるのは、図書館の利用目的（表6）について全員が「その他」を選んでいる点にある。その中身は図書館ボランティアへの参加から、ひまつぶし、配偶者への同行など多様で、一貫性は認められない。また、貸出目的の利用者が3分の1程度と少ないことも特徴である。

「その他」の目的で図書館を訪れる人々が単独のクラスターとして導出されたのがこのグループと言えるが、利用目的以外の図書館への認識等は多用であって、特定の傾向を見出すことは難しい。しいて言えば、「その他」の目的で図書館を訪れるのは高齢の女性で特に職業に就いていない人物が主である、ということと言えるだろう。

3.2 図書館非利用者のクラスター分析結果

(1) 分析結果の概要

表32～56は図書館非利用者の各クラスターについて、傾向分析の結果を示したものである。なお、大きな特徴が認められなかったため、利用者の分析においては掲載した居住地の都市規模に関する表は省略している。

表32に示したとおり、非利用者の各クラスター内には図書館を「過去には利用したことはある」者と「過去にも利用したことはない」者が、偏りはありつつもある程度、混在している。言い換えれば、過去の利用経験の有無以上に、クラスター分けにおいて有効な変数が存在したものと考えられる。ここから、前述のとおり「過去には利用したことがあるが2014年は使わなかった者」と「過去にも利用したことがない者」を分けてクラスター分析にかけるよりも、両者を合わせてクラスター分析にかけた方が妥当であると判断した。

クラスター分析による図書館利用者・非利用者のグループ化

表32. 図書館非利用者各クラスターの図書館利用経験（Q21）

		1	2	3	4	5	6	全体
過去に利用した ことはある	度数	158	234	58	301	761	296	1808
	割合	47.6%	53.5%	65.9%	72.7%	55.3%	79.8%	59.9%
過去にも利用した ことはない	度数	174	203	30	113	615	75	1210
	割合	52.4%	46.5%	34.1%	27.3%	44.7%	20.2%	40.1%

表33. 図書館非利用者各クラスターの図書館を使わなかった理由（Q25）

		1	2	3	4	5	6	全体
図書館が近くにない	度数	34	342	9	40	40	42	507
	割合	10.2%	78.3%	10.2%	9.7%	2.9%	11.3%	16.8%
図書館への交通が不便	度数	8	236	9	30	19	40	342
	割合	2.4%	54.0%	10.2%	7.2%	1.4%	10.8%	11.3%
図書館のサービス時間が 短い	度数	9	11	3	1	5	119	148
	割合	2.7%	2.5%	3.4%	0.2%	0.4%	32.1%	4.9%
図書館の席が空いて いない	度数	0	0	0	0	0	53	53
	割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	1.8%
図書館には読みたい 本がない	度数	14	27	2	19	11	235	308
	割合	4.2%	6.2%	2.3%	4.6%	0.8%	63.3%	10.2%
利用手続きが面倒	度数	179	28	4	21	23	61	316
	割合	53.9%	6.4%	4.5%	5.1%	1.7%	16.4%	10.5%
どんな本があるかわから ない、場所を知らない	度数	123	36	1	7	1	7	175
	割合	37.0%	8.2%	1.1%	1.7%	0.1%	1.9%	5.8%
公共図書館以外を 利用する	度数	46	0	1	0	0	4	51
	割合	13.9%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%	1.1%	1.7%
電子書籍やウェブで 事足りる	度数	26	33	7	7	164	44	281
	割合	7.8%	7.6%	8.0%	1.7%	11.9%	11.9%	9.3%
本や雑誌は購入する	度数	89	91	12	31	476	100	799
	割合	26.8%	20.8%	13.6%	7.5%	34.6%	27.0%	26.5%
余暇がない	度数	11	11	8	414	116	21	581
	割合	3.3%	2.5%	9.1%	100.0%	8.4%	5.7%	19.3%
必要性を感じない、 興味がない	度数	63	54	4	56	864	37	1078
	割合	19.0%	12.4%	4.5%	13.5%	62.8%	10.0%	35.7%
その他	度数	0	0	88	0	0	1	89
	割合	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.3%	2.9%

表34. 図書館非利用者各クラスターの
「公共図書館は全ての人に平等な機会を与えるのに重要」認識 (Q31-1)

		1	2	3	4	5	6	全体
非常にそう思う	度数	33	53	24	48	111	38	307
	割合	9.9%	12.1%	27.3%	11.6%	8.1%	10.2%	10.2%
そう思う	度数	154	242	49	246	666	204	1561
	割合	46.4%	55.4%	55.7%	59.4%	48.4%	55.0%	51.7%
そう思わない	度数	58	70	4	67	177	66	442
	割合	17.5%	16.0%	4.5%	16.2%	12.9%	17.8%	14.6%
全くそう思わない	度数	15	14	1	5	29	19	83
	割合	4.5%	3.2%	1.1%	1.2%	2.1%	5.1%	2.8%
わからない	度数	72	58	10	48	393	44	625
	割合	21.7%	13.3%	11.4%	11.6%	28.6%	11.9%	20.7%

表35. 図書館非利用者各クラスターの
「公共図書館には最新の情報技術が取り入れられていない」認識 (Q31-2)

		1	2	3	4	5	6	全体
非常にそう思う	度数	14	30	1	14	25	36	120
	割合	4.2%	6.9%	1.1%	3.4%	1.8%	9.7%	4.0%
そう思う	度数	81	100	22	106	239	118	666
	割合	24.4%	22.9%	25.0%	25.6%	17.4%	31.8%	22.1%
そう思わない	度数	109	161	30	192	467	132	1091
	割合	32.8%	36.8%	34.1%	46.4%	33.9%	35.6%	36.1%
全くそう思わない	度数	24	24	5	15	56	17	141
	割合	7.2%	5.5%	5.7%	3.6%	4.1%	4.6%	4.7%
わからない	度数	104	122	30	87	589	68	1000
	割合	31.3%	27.9%	34.1%	21.0%	42.8%	18.3%	33.1%

表36. 図書館非利用者各クラスターの「必要な情報の多くは自分で探せるようになった
ので、公共図書館は以前ほど必要とされていない」認識 (Q31-3)

		1	2	3	4	5	6	全体
非常にそう思う	度数	15	26	6	18	59	20	144
	割合	4.5%	5.9%	6.8%	4.3%	4.3%	5.4%	4.8%
そう思う	度数	123	134	26	150	447	156	1036
	割合	37.0%	30.7%	29.5%	36.2%	32.5%	42.0%	34.3%
そう思わない	度数	101	191	36	171	450	139	1088
	割合	30.4%	43.7%	40.9%	41.3%	32.7%	37.5%	36.1%
全くそう思わない	度数	29	29	8	33	58	17	174
	割合	8.7%	6.6%	9.1%	8.0%	4.2%	4.6%	5.8%
わからない	度数	64	57	12	42	362	39	576
	割合	19.3%	13.0%	13.6%	10.1%	26.3%	10.5%	19.1%

表37. 図書館非利用者各クラスターの

「公共図書館は自分で探す手段のない人に多くのサービスを提供している」認識 (Q31-4)

		1	2	3	4	5	6	全体
非常にそう思う	度数	29	40	14	38	81	35	237
	割合	8.7%	9.2%	15.9%	9.2%	5.9%	9.4%	7.9%
そう思う	度数	152	224	43	236	598	178	1431
	割合	45.8%	51.3%	48.9%	57.0%	43.5%	48.0%	47.4%
そう思わない	度数	63	96	7	75	209	88	538
	割合	19.0%	22.0%	8.0%	18.1%	15.2%	23.7%	17.8%
全くそう思わない	度数	11	15	0	5	41	17	89
	割合	3.3%	3.4%	0.0%	1.2%	3.0%	4.6%	2.9%
わからない	度数	77	62	24	60	447	53	723
	割合	23.2%	14.2%	27.3%	14.5%	32.5%	14.3%	24.0%

表38. 図書館非利用者各クラスターの

「公共図書館は読書好きや教養を育むため重要である」認識 (Q31-5)

		1	2	3	4	5	6	全体
非常にそう思う	度数	46	78	22	97	146	52	441
	割合	13.9%	17.8%	25.0%	23.4%	10.6%	14.0%	14.6%
そう思う	度数	174	267	51	243	737	227	1699
	割合	52.4%	61.1%	58.0%	58.7%	53.6%	61.2%	56.3%
そう思わない	度数	48	54	3	44	145	50	344
	割合	14.5%	12.4%	3.4%	10.6%	10.5%	13.5%	11.4%
全くそう思わない	度数	14	7	3	4	33	11	72
	割合	4.2%	1.6%	3.4%	1.0%	2.4%	3.0%	2.4%
わからない	度数	50	31	9	26	315	31	462
	割合	15.1%	7.1%	10.2%	6.3%	22.9%	8.4%	15.3%

表39. 図書館非利用者各クラスターの

「公共図書館が近くにあることで地域の生活の質が向上する」認識 (Q31-6)

		1	2	3	4	5	6	全体
非常にそう思う	度数	20	51	15	42	58	34	220
	割合	6.0%	11.7%	17.0%	10.1%	4.2%	9.2%	7.3%
そう思う	度数	149	237	45	226	567	182	1406
	割合	44.9%	54.2%	51.1%	54.6%	41.2%	49.1%	46.6%
そう思わない	度数	77	91	8	78	267	88	609
	割合	23.2%	20.8%	9.1%	18.8%	19.4%	23.7%	20.2%
全くそう思わない	度数	20	7	1	12	49	16	105
	割合	6.0%	1.6%	1.1%	2.9%	3.6%	4.3%	3.5%
わからない	度数	66	51	19	56	435	51	678
	割合	19.9%	11.7%	21.6%	13.5%	31.6%	13.7%	22.5%

表40. 図書館非利用者各クラスターの、自身の住む地域の図書館が閉館された場合の
自身や家族への影響の程度認識 (Q32)

		1	2	3	4	5	6	全体
大きな影響がある	度数	14	17	6	28	43	24	132
	割合	4.2%	3.9%	6.8%	6.8%	3.1%	6.5%	4.4%
影響がある	度数	63	86	21	122	218	99	609
	割合	19.0%	19.7%	23.9%	29.5%	15.8%	26.7%	20.2%
あまり影響はない	度数	119	194	38	158	526	167	1202
	割合	35.8%	44.4%	43.2%	38.2%	38.2%	45.0%	39.8%
影響はない	度数	87	91	11	58	394	59	700
	割合	26.2%	20.8%	12.5%	14.0%	28.6%	15.9%	23.2%
わからない	度数	49	49	12	48	195	22	375
	割合	14.8%	11.2%	13.6%	11.6%	14.2%	5.9%	12.4%

表41. 図書館非利用者各クラスターの、自身の住む地域の図書館が閉館された場合の
地域への影響の程度認識 (Q33)

		1	2	3	4	5	6	全体
大きな影響がある	度数	20	21	9	32	56	31	169
	割合	6.0%	4.8%	10.2%	7.7%	4.1%	8.4%	5.6%
影響がある	度数	103	163	30	177	408	146	1027
	割合	31.0%	37.3%	34.1%	42.8%	29.7%	39.4%	34.0%
あまり影響はない	度数	87	130	25	105	383	108	838
	割合	26.2%	29.7%	28.4%	25.4%	27.8%	29.1%	27.8%
影響はない	度数	54	47	6	30	222	45	404
	割合	16.3%	10.8%	6.8%	7.2%	16.1%	12.1%	13.4%
わからない	度数	68	76	18	70	307	41	580
	割合	20.5%	17.4%	20.5%	16.9%	22.3%	11.1%	19.2%

表42. 図書館非利用者各クラスターの図書館サービスとしての
「本やCDなどの無料の貸出」の重要性認識 (Q34-1)

		1	2	3	4	5	6	全体
とても重要	度数	82	126	32	107	243	109	699
	割合	24.7%	28.8%	36.4%	25.8%	17.7%	29.4%	23.2%
いくらか重要	度数	130	181	34	226	521	160	1252
	割合	39.2%	41.4%	38.6%	54.6%	37.9%	43.1%	41.5%
あまり重要ではない	度数	60	75	14	61	248	66	524
	割合	18.1%	17.2%	15.9%	14.7%	18.0%	17.8%	17.4%
重要ではない	度数	32	36	4	16	159	22	269
	割合	9.6%	8.2%	4.5%	3.9%	11.6%	5.9%	8.9%
わからない	度数	28	19	4	4	205	14	274
	割合	8.4%	4.3%	4.5%	1.0%	14.9%	3.8%	9.1%

表43. 図書館非利用者各クラスターの図書館サービスとしての
「仕事や学習に関する情報の提供」の重要性認識 (Q34-2)

		1	2	3	4	5	6	全体
とても重要	度数	62	71	17	79	151	63	443
	割合	18.7%	16.2%	19.3%	19.1%	11.0%	17.0%	14.7%
いくらか重要	度数	135	192	42	218	491	170	1248
	割合	40.7%	43.9%	47.7%	52.7%	35.7%	45.8%	41.4%
あまり重要ではない	度数	65	109	16	91	303	82	666
	割合	19.6%	24.9%	18.2%	22.0%	22.0%	22.1%	22.1%
重要ではない	度数	31	33	6	18	184	39	311
	割合	9.3%	7.6%	6.8%	4.3%	13.4%	10.5%	10.3%
わからない	度数	39	32	7	8	247	17	350
	割合	11.7%	7.3%	8.0%	1.9%	18.0%	4.6%	11.6%

表44. 図書館非利用者各クラスターの図書館サービスとしての
「インターネット等の提供」の重要性認識 (Q34-3)

		1	2	3	4	5	6	全体
とても重要	度数	51	85	21	64	159	63	443
	割合	15.4%	19.5%	23.9%	15.5%	11.6%	17.0%	14.7%
いくらか重要	度数	126	159	34	202	455	147	1123
	割合	38.0%	36.4%	38.6%	48.8%	33.1%	39.6%	37.2%
あまり重要ではない	度数	82	125	18	105	331	96	757
	割合	24.7%	28.6%	20.5%	25.4%	24.1%	25.9%	25.1%
重要ではない	度数	38	47	7	35	216	49	392
	割合	11.4%	10.8%	8.0%	8.5%	15.7%	13.2%	13.0%
わからない	度数	35	21	8	8	215	16	303
	割合	10.5%	4.8%	9.1%	1.9%	15.6%	4.3%	10.0%

表45. 図書館非利用者各クラスターの図書館サービスとしての
「場所の提供」の重要性認識 (Q34-4)

		1	2	3	4	5	6	全体
とても重要	度数	71	107	25	115	241	102	661
	割合	21.4%	24.5%	28.4%	27.8%	17.5%	27.5%	21.9%
いくらか重要	度数	133	193	39	207	482	163	1217
	割合	40.1%	44.2%	44.3%	50.0%	35.0%	43.9%	40.3%
あまり重要ではない	度数	61	80	13	71	269	62	556
	割合	18.4%	18.3%	14.8%	17.1%	19.5%	16.7%	18.4%
重要ではない	度数	34	34	6	18	168	32	292
	割合	10.2%	7.8%	6.8%	4.3%	12.2%	8.6%	9.7%
わからない	度数	33	23	5	3	216	12	292
	割合	9.9%	5.3%	5.7%	0.7%	15.7%	3.2%	9.7%

表46. 図書館非利用者各クラスターの図書館サービスとしての
「イベントの提供」の重要性認識 (Q34-5)

		1	2	3	4	5	6	全体
とても重要	度数	35	42	10	52	85	34	258
	割合	10.5%	9.6%	11.4%	12.6%	6.2%	9.2%	8.5%
いくらか重要	度数	115	156	35	181	412	163	1062
	割合	34.6%	35.7%	39.8%	43.7%	29.9%	43.9%	35.2%
あまり重要ではない	度数	99	151	21	128	406	96	901
	割合	29.8%	34.6%	23.9%	30.9%	29.5%	25.9%	29.9%
重要ではない	度数	42	57	14	41	215	59	428
	割合	12.7%	13.0%	15.9%	9.9%	15.6%	15.9%	14.2%
わからない	度数	41	31	8	12	258	19	369
	割合	12.3%	7.1%	9.1%	2.9%	18.8%	5.1%	12.2%

表47. 図書館非利用者各クラスターの図書館サービスとしての
「図書館員による調べものサポート」の重要性認識 (Q34-6)

		1	2	3	4	5	6	全体
とても重要	度数	36	61	20	59	136	59	371
	割合	10.8%	14.0%	22.7%	14.3%	9.9%	15.9%	12.3%
いくらか重要	度数	139	202	41	213	467	158	1220
	割合	41.9%	46.2%	46.6%	51.4%	33.9%	42.6%	40.4%
あまり重要ではない	度数	78	103	12	104	329	93	719
	割合	23.5%	23.6%	13.6%	25.1%	23.9%	25.1%	23.8%
重要ではない	度数	39	44	9	24	191	42	349
	割合	11.7%	10.1%	10.2%	5.8%	13.9%	11.3%	11.6%
わからない	度数	40	27	6	14	253	19	359
	割合	12.0%	6.2%	6.8%	3.4%	18.4%	5.1%	11.9%

表48. 図書館非利用者各クラスターの図書館サービスとしての
「蔵書目録などの提供」の重要性認識 (Q34-7)

		1	2	3	4	5	6	全体
とても重要	度数	56	77	22	62	156	76	449
	割合	16.9%	17.6%	25.0%	15.0%	11.3%	20.5%	14.9%
いくらか重要	度数	132	196	38	210	447	167	1190
	割合	39.8%	44.9%	43.2%	50.7%	32.5%	45.0%	39.4%
あまり重要ではない	度数	71	100	18	100	332	71	692
	割合	21.4%	22.9%	20.5%	24.2%	24.1%	19.1%	22.9%
重要ではない	度数	34	29	3	23	185	39	313
	割合	10.2%	6.6%	3.4%	5.6%	13.4%	10.5%	10.4%
わからない	度数	39	35	7	19	256	18	374
	割合	11.7%	8.0%	8.0%	4.6%	18.6%	4.9%	12.4%

表49. 図書館非利用者各クラスターの図書館サービスとしての
「子ども向けのサービスの提供」の重要性認識 (Q34-8)

		1	2	3	4	5	6	全体
とても重要	度数	62	95	26	112	230	69	594
	割合	18.7%	21.7%	29.5%	27.1%	16.7%	18.6%	19.7%
いくらか重要	度数	126	167	25	188	428	157	1091
	割合	38.0%	38.2%	28.4%	45.4%	31.1%	42.3%	36.1%
あまり重要ではない	度数	61	86	12	68	241	64	532
	割合	18.4%	19.7%	13.6%	16.4%	17.5%	17.3%	17.6%
重要ではない	度数	43	56	19	34	222	56	430
	割合	13.0%	12.8%	21.6%	8.2%	16.1%	15.1%	14.2%
わからない	度数	40	33	6	12	255	25	371
	割合	12.0%	7.6%	6.8%	2.9%	18.5%	6.7%	12.3%

表50. 図書館非利用者各クラスターの地域への愛着 (Q16)

		1	2	3	4	5	6	全体
強く感じている	度数	47	64	22	81	206	42	462
	割合	14.2%	14.6%	25.0%	19.6%	15.0%	11.3%	15.3%
感じている	度数	187	244	46	249	849	230	1805
	割合	56.3%	55.8%	52.3%	60.1%	61.7%	62.0%	59.8%
感じていない	度数	68	107	18	71	250	69	583
	割合	20.5%	24.5%	20.5%	17.1%	18.2%	18.6%	19.3%
全く感じていない	度数	30	22	2	13	71	30	168
	割合	9.0%	5.0%	2.3%	3.1%	5.2%	8.1%	5.6%

表51. 図書館非利用者各クラスターの地域活動への参加 (Q17)

		1	2	3	4	5	6	全体
よく参加する	度数	19	36	12	44	128	28	267
	割合	5.7%	8.2%	13.6%	10.6%	9.3%	7.5%	8.8%
ときどき参加する	度数	66	113	22	124	343	99	767
	割合	19.9%	25.9%	25.0%	30.0%	24.9%	26.7%	25.4%
参加したことがある	度数	113	114	24	110	419	120	900
	割合	34.0%	26.1%	27.3%	26.6%	30.5%	32.3%	29.8%
参加したことがない	度数	134	174	30	136	486	124	1084
	割合	40.4%	39.8%	34.1%	32.9%	35.3%	33.4%	35.9%

表52. 図書館非利用者各クラスターの本を読む頻度 (Q5-4)

		1	2	3	4	5	6	全体
1日複数回	度数	30	35	11	16	73	34	199
	割合	9.0%	8.0%	12.5%	3.9%	5.3%	9.2%	6.6%
毎日	度数	37	57	17	34	160	67	372
	割合	11.1%	13.0%	19.3%	8.2%	11.6%	18.1%	12.3%
週1	度数	68	108	17	79	235	99	606
	割合	20.5%	24.7%	19.3%	19.1%	17.1%	26.7%	20.1%
月1	度数	43	68	7	68	183	63	432
	割合	13.0%	15.6%	8.0%	16.4%	13.3%	17.0%	14.3%
年に数回	度数	57	73	13	85	231	36	495
	割合	17.2%	16.7%	14.8%	20.5%	16.8%	9.7%	16.4%
ほぼない	度数	73	76	17	104	371	58	699
	割合	22.0%	17.4%	19.3%	25.1%	27.0%	15.6%	23.2%
全くない	度数	24	20	6	28	123	14	215
	割合	7.2%	4.6%	6.8%	6.8%	8.9%	3.8%	7.1%

表53. 図書館非利用者各クラスターの博物館等の来訪頻度 (Q7-1)

		1	2	3	4	5	6	全体
よく行く	度数	13	14	2	5	23	10	67
	割合	3.9%	3.2%	2.3%	1.2%	1.7%	2.7%	2.2%
たまに行く	度数	105	156	35	141	391	143	971
	割合	31.6%	35.7%	39.8%	34.1%	28.4%	38.5%	32.2%
ほとんど行かない	度数	159	219	44	224	774	182	1602
	割合	47.9%	50.1%	50.0%	54.1%	56.3%	49.1%	53.1%
全く行かない	度数	47	43	6	40	159	29	324
	割合	14.2%	9.8%	6.8%	9.7%	11.6%	7.8%	10.7%
わからない	度数	8	5	1	4	29	7	54
	割合	2.4%	1.1%	1.1%	1.0%	2.1%	1.9%	1.8%

表54. 図書館非利用者各クラスターの年齢

	平均値	中央値	標準偏差	度数
1	47.52	46.00	17.131	332
2	50.23	49.00	17.128	437
3	60.28	65.00	15.790	88
4	49.17	48.00	15.817	414
5	53.51	54.00	16.376	1376
6	47.46	46.00	16.321	371
全体	51.24	51.00	16.724	3018

表55. 図書館非利用者各クラスターの性別

		1	2	3	4	5	6	全体
男性	度数	185	185	28	183	754	196	1531
	割合	55.7%	42.3%	31.8%	44.2%	54.8%	52.8%	50.7%
女性	度数	147	252	60	231	622	175	1487
	割合	44.3%	57.7%	68.2%	55.8%	45.2%	47.2%	49.3%

表56. 図書館非利用者各クラスターの子どもの有無

		1	2	3	4	5	6	全体
子どもなし	度数	241	282	63	252	930	253	2021
	割合	72.6%	64.5%	71.6%	60.9%	67.6%	68.2%	67.0%
子どもあり	度数	91	155	25	162	446	118	997
	割合	27.4%	35.5%	28.4%	39.1%	32.4%	31.8%	33.0%

(2) 図書館利用者全体と非利用者全体の比較

非利用者の各クラスターの詳細に入る前に、図書館利用者と非利用者全体を比較した結果を確認しておく。まず図書館への認識（Q31）について、当然ながら顕著な差が認められる。非利用者においては「わからない」選択者が多いことに加え、基本的に図書館に対する肯定的な意見に対しては同意しない者の割合が利用者よりも多い。否定的な意見については、「最新の情報技術が取り入れられていない」（表9と表35）については利用者の方が同意する者の割合が高いが、「公共図書館は以前ほど必要されていない」

（表10と表36）については非利用者の方が同意する者の割合が高い。図書館が閉館された場合の影響についても、これも当然ながら非利用者の方が自身や家族にとっても、地域にとってもあまり影響はないと考えている。

各サービスの重要性認識についても、全てのサービスについて非利用者は利用者よりも重要性を低く見積もっている。特に顕著な差が出るのは資料の無料貸出についてで（表16と表42）、利用者とはとても、あるいはいくらか重要と思っている者が9割を超えるのに対し、非利用者では6割強にとどまった。

その他の属性について見ると、非利用者の方が男性が多く、同居する子どものいない家庭がやや多く、本を読む頻度や博物館等の来訪頻度が少ない。また、地域への愛着は利用者に比べやや弱く、地域活動への参加も少なかった。

次項以降では表32以下の表を参照しつつ、図書館非利用者の第1～第6クラスターの特徴と、それぞれの図書館への認識を確認していく。

(3) 第1クラスター：「なんとなく面倒」派

332人が属する中規模クラスターである。地域活動への参加が少なめで、年齢は他クラスターよりも低い（中央値で46）。男性がやや多く、子どもがいない割合が最多である。

第1クラスターは唯一、図書館利用経験（表32）について「過去にも利用したことはない」者が過半数を占めるクラスターである。図書館を使わない理由（表33）については、過半数が「利用手続きが面倒」を選択し、3分の1以上が「どんな本があるかわからない、場所を知らない」を選択している。「必要性を感じない、興味がない」選択者も非利用者の中で2番目に多い。

図書館への認識（表34～39）、図書館が閉館された場合の影響（表40・41）、各サービスの重要性認識（表42～49）については、他クラスターと比べて特徴的な項目はない。

図書館の利用手続きが面倒であるかどうかは意見が分かれるところかも知れないが、その他の回答者がほとんど選んでいないことを鑑みても、一般にさほど煩雑とはいいたらう。そのような手続の実態も含め、「図書館にはあまり行ったこともないしよくわからないが、なんとなく面倒そう」というのがこのグループである。その中には若い男性が多く含まれている。

(4) 第2クラスター：「近くに図書館がない／交通が不便」派

437人が属する非利用者中、第2位の規模のクラスターである。地域への愛着等に特徴はない。年齢は他クラスターよりやや低く（中央値で49）、女性が多い。図書館利用経験（表32）については半数近くが過去にも使ったことがないとしている。表は省略しているが、やや大都市居住者が多く、地方在住者（指定市・特別区・中核市・特例市以外の在住者）が少なめである。

図書館を使わない理由（表33）については、78%が図書館が近くにないことを、54%が交通が不便であることを挙げており、他クラスターに比べ突出している。

図書館への認識（表34～39）については突出した項目はないが、全体にやや肯定的傾向がある。図書館が閉館された場合の影響（表40・41）、各サービスの重要性認識（表42～49）については、他クラスターと比べて特徴的な項目はない。

図書館が近くになく、交通が不便であるので図書館を利用しない、というのがこのグループである。この点だけを見れば公共交通に不便のある地方在住者が多く含まれそうに思うところであるが、実際には大都市居住者が多くを占めている。自家用車ではなく公共交通で移動する頻度の多い都市住民の方が、図書館が近くにないより不便を感じる事が示唆される。

(5) 第3クラスター：「その他」の理由で図書館に行けない人々

88人が属する非利用者中、最小のクラスターである。地域への愛着は深く、地域参加も積極的である。年齢は最も高齢で（中央値で65）、女性が約7割を占める。3分の2の回答者は過去には図書館を利用したことがある。また、読書頻度が他クラスターよりやや多めである。

図書館を使わない理由（表33）について、全員が「その他」を選択していることがこのクラスターの特徴である。「その他」の内訳は様々だが、特に多いのは自身の身体的理由である。高齢化に伴う移動の困難と、老眼などの視力の問題を挙げる者が多い。その他には小さい子どもがいて通いづらい、駐車場がない等の理由がしばしば挙げられている。

図書館への認識（表34～39）については全体にやや肯定的で、各サービスの重要性認識（表42～49）についても、非利用者の中ではあらゆるサービスについて重要性を高く見積もっている。一方、図書館が閉館された場合の影響（表40・41）、は、他クラスターと比べて特徴的な項目はない。

「行きたくないわけではないが、なんらかの理由があって行けない」、いわゆる図書館の利用に障害がある人々がこのクラスターには多く含まれている。その内実としては高齢化という身体的理由が最も多い。図書館の側がなんらかの形で手を差し伸べることができれば、利用者へと転じる可能性が高いのがこのグループであると言えよう。

(6) 第4クラスター：「余暇がない」派

414人が属する第3位の規模のクラスターである。地域への愛着は深く、地域参加もやや多めである。年齢はやや低く（中央値で48）、女性がやや多い。図書館を使ったことがない、という回答者は約27%と全クラスター中で2番目に少ない。子どもがいる世帯が多い。また、被雇用者が他のクラスターより多い傾向がある。

このクラスターは図書館を使わない理由（表33）について、全員が「余暇がない」と回答している。図書館への認識（表34～39）については全体にやや肯定的で、各サービスの重要性認識（表42～49）についてもあらゆるサービスについて他のクラスターより重要であると考えている。図書館が閉館された場合の影響（表40・41）についても、自分や家族、地域の双方について他のクラスターよりも影響が大きいと考える者の割合が多い。

過去には図書館を使っていたことがあり、図書館を肯定的に捉えてもいるが、図書館に行く余暇がないというのがこのグループである。子どもがいる世帯や働き盛りの被雇用者など、時間的余裕がないだろうと考えられる人々が属している。

(7) 第5クラスター：「興味がない」派

1,378人と、非利用者全体の3分の1以上が属する、最大のクラスターである。半数近くが過去にも図書館を利用したことがない。年齢はやや高く（中央値で54）、男性がやや多い。その他の属性にはっきりした傾向はない。

このクラスターは図書館を使わない理由（表33）について、「行く必要性を感じない、興味がない」選択者が6割以上と他クラスターより顕著に多くなっている。図書館への認識（表34～39）については「わからない」選択者が多く、各サービスの重要性認識（表42～49）についても「わからない」選択者が多い。図書館が閉館された場合の影響（表40・41）については、自分や家族、地域の双方について他のクラスターよりもあまり影響がないと考える者の割合が多い。

非利用者中、最大クラスターは図書館に「興味がない」人々である。興味がないので、印象についても肯定的でも否定的でもなく、「わからない」が多数を占める。図書館を利用しない人々の多くがそもそも図書館に興味がない、ということは留意が必要だろう。

(8) 第6クラスター：現在のサービスに不満がある人々

371人が属する中規模クラスターである。過去にも図書館を使ったことがない、とする者は約20%で全クラスター中、最も少ない。年齢は最も若く（中央値で46）、男性がやや多い。本を読む頻度は他のクラスターよりやや多めである。

このクラスターの図書館を使わない理由（表33）は多様である。「図書館のサービス時間が短い」（約32%）、「席が空いていない」（約14%）、「読みたい本がない」（約63%）が他クラスターより突出して高いほか、「利用手続きが面倒」も約16%と高めである。図書館への認識（表34～39）については「最新の技術が取り入れられていない」、「以前ほど必要とされていない」等、否定的な項目への賛同者が他クラスターより多い。図書館が閉館された場合の影響（表40・41）については「わからない」選択者が比較的多く、その他は大きな影響があると考えるか、逆に影響がないと考える者に割れている。各サービスの重要性認識（表42～49）については、いずれも他のクラスターより比較的、重要性を高く見積もっている。

このクラスターに属する人々の多くはかつて、図書館を使っていた人々であり、様々な理由、中でも蔵書構成、サービス時間、閲覧席数等を理由に現在の図書館サービスに不満があって使わなくなった人々である。それだけに図書館に対しては否定的な意見を抱いているが、図書館サービスの重要性自体は高く見積もっている。図書館という機能の存在は重視しているが、現在の図書館には満足していない人々と言えるだろう。

4. 考察

本研究の目的は図書館に対する認識それ自体の傾向の類似度に基づいて人々をグループ化するクラスター分析を行った上で、各グループの属性を分析することで、どういったグループが、どういった図書館認識を抱いているか、その対応関係を明らかにすることであった。分析の結果、図書館利用者を7つ、非利用者を6つのクラスターに分類することができ、第3章に示したとおりそれぞれの特徴と図書館認識についても明らかになった。

クラスター分析結果全体を俯瞰すると、図書館利用者についてはある程度、有効な結果を得ることができたものと考えられる。それぞれに特徴的な属性と利用形態を持つ人々が、同じく特徴的な図書館認識を抱いていることがわかった。特に都市住民と地方在住者で同じように貸出のために図書館を利用している、図書館に対する評価は異なること（後者は自分にとっても地域にとっても重要と考えているが、前者は使ってはいなくても必ずしも重要視はしていない場合がある）、地域の情報拠点・コミュニティ基盤としての図書館認識を抱いている人々の属性（高齢・高学歴男性・退職者で地域参加に積極的）を明らかにできたこと等には意義があると考えられる。また、「場としての図書館」利用者が、図書館を愛好しているというよりは本当に場所として使っているのみであり、図書館自体をあまり重視していないことが示された点も興味深い。

一方、非利用者の分析についてもそれぞれに特徴的な非利用者像が明らかになり、特に現状のサービスに不満がある人々や、利用に障害がある人々の存在を示すことができた点には、アウトリーチやサービス改善につなげていく上で意義があると言えるだろう。その反面、非利用者については各クラスターを特徴づけるのはほとんどが「使わなかった理由」であって、図書館に対する認識については肯定的・否定的等で若干の差はありつつも、大きな特徴を見出すことはほとんどできなかった。図書館を使う人々の間での図書館観は多様である一方、使わない人々の間では、図書館に対する認識にあまり大きな差はないということがここから言えるかもしれない。

本稿は多分に試験的な分析の結果を示したものであるが、それでもここまで示したように様々な知見を得ることができた。今後はクラスター分析に採用するデータや分析手法の精緻化を図ることにより、今回得た結果の妥当性を検証していく必要があるものと考えられる。

謝辞

本研究の一部は科学研究費補助金（基盤研究（B））「ミュージアムと高齢者の互恵的関係に関する研究」（17H02026）の助成を受けて行われたものです。

注・参考文献

- (1) 松林麻実子. “第11章 人々のイメージのなかの図書館”. 図書館情報学を学ぶ人のために. 逸村裕, 田窪直規, 原田隆史編. 世界思想社, 2017, p.113-122.
- (2) 国立国会図書館. “図書館利用者の情報行動の傾向及び図書館に関する意識調査”. カレントアウェアネス・ポータル. 2015, http://current.ndl.go.jp/FY2014_research, (2017-09-12参照).
- (3) 以下、特に断りがない場合、本稿における「図書館」とは公共図書館を指す。
- (4) 佐藤翔. “子の有無と図書館利用・情報行動の関係”. 第14回情報メディア学会研究大会. 京都, 2015-06-27. 情報メディア学会, 2015.
- (5) 佐藤翔ほか. “日本人の情報行動から見る「孤独」”. 第15回情報メディア学会研究大会. つくば, 2016-06-25. 情報メディア学会, 2016.
- (6) 野口康人, 岡部晋典, 浜島幸司, 片山ふみ. “社会階層と図書館利用”. 2015年社会情報学会 (SSI) 学会大会研究発表論文集. 東京, 2015-09-11/13. 社会情報学会, 2015, p.238-243.
- (7) Pew Research Center. From Distant Admirers to Library Lovers — and beyond. Pew Research Center, 2014, 131p.
<http://www.pewinternet.org/files/2014/03/PIP-Library-Typology-Report.pdf>, (2017-09-12参照).
- (8) 前傾(4).

(さとう しょう。2017年9月12日受理)